

設立50周年記念 式典・祝賀会 特集号！

長岡身障連かわら版

ごあいさつ 長岡市身障連50周年 「今日から明日へ 生き抜く力」

会長 藤田芳雄



「白杖（はくじょう）で 路面奏でる いい音色」の川柳は長岡市身体障害者団体連合会が今年、設立50周年を迎えるにあたり、その記念事業のひとつとして、全国に呼びかけて募集した障害者川柳、1,384作品の中から選ばれ、最優秀となった作品です。障害のない、一般の方からの応募でした。白杖は視覚障害者にとっては安全上、無くてはならない必需品ですが、障害当事者にとって時に、持つことに抵抗を感じたり、その音を気にする障害者自身も少なくありません。しかし、その音を「心地よい」と表現したこの作品に新鮮さを感じると同時に、川柳を通じて様々な人たちとの交流、理解ができたことを大きな喜びと感じています。

長岡市身体障害者団体連合会は、昭和45年（1970年）秋、当時の長岡肢体障害者協会、長岡盲人協会、長岡聾啞者協会の3団体が一堂に会し、「会員自ら進んで障害を克服し、社会的・経済的・文化的地位の向上を図ると共に、（以下、略）」（旧会則より）ことを目的として、当時の中越婦人会館において発会式が行われ、障害種別を超えた運動の拠点として発足しました。

その後、平成17年からは合併各地域の身体障害者協会ともひとつになって今日に至っています。

この間、連合会は様々な困難を克服し、お陰様で本年で晴れて節目の50周年を迎えることとなりました。

これまでの歩みを振り返るとき、先人のご苦勞に感謝するとともに、あらためて私たち自身も、その決意を新たにしているところです。

そして去る10月18日、一年がかりで準備を進めてきた設立50周年記念式典が、綿密な新型コロナ対策を施す中で、磯田達伸長岡市長を始め100名近い皆様にご出席いただき、長岡グランドホテルにて盛大に開催することができました。

副題には高齢化が進む各協会の活性化や、新型コロナの早期終息を願って「今日から明日へ 生き抜く力」としました。式典は人々の健康を祈り、お祝いの南インド舞踊でスタート。ご来賓の皆様からたくさんのお祝いのメッセージをいただいた後、応募された障害者川柳の優秀作10点の発表と表彰式が行われました。この模様はテレビ新潟や、新潟日報紙面でも報道され、大きな反響を呼んだところです。

これを機に、今後とも皆様のますますのご指導、ご支援をお願いし、ごあいさつに代えさせていただきます。

【発行人】
長岡市身体障害者団体連合会
会長：藤田芳雄
令和2年冬号



出席いただいたご来賓の皆様

長岡市長	磯田達伸	様
長岡市議会議員	丸山広司	様
社会福祉法人長岡市社会福祉協議会	会長 本田史朗	様
新潟県身体障害者団体連合会	会長 西山眞樹雄	様
連合新潟中越地域協議会	議長 矢島良彦	様
刈羽村身体障害者福祉協会	会長 丸山正光	様

日青堂長岡店	取締役店長	竹部昭文	様
印章堂印判文具店	代表	東條明彦	様
長岡大学	教授（選考委員長）	米山宗久	様
元長岡新聞川柳選者		小栗正和	様
社会福祉法人長岡市社会福祉協議会	常務理事	小村久子	様
連合新潟中越地域協議会	事務局長	小林 守	様
市民代表		島倉未知子	様

皆様、ご多忙のところありがとうございました。

長岡市身体障害者団体連合会 設立50周年記念式典

長岡市ろうあ者福祉協会 鈴木昭夫

去る10月18日(日)長岡市身体障害者団体連合会設立50周年記念式典、祝賀会に出席しました。

参加者は88人と大勢の人でびっくりしました。

ろうあ者の仲間も13人が参加してくれました。

記念式典で、南インド古典舞踊が美しく、とても素晴らしかったです。

新型コロナウイルス感染が大きな社会問題となっていますが、最後まで安全に無事に終わることができ、良かったと思います。

役員の皆様お疲れ様でした。

私は初めて身体障害者団体連合会の行事に参加しました。

ろうあ者の仲間ともたくさん交流ができて、楽しい時間でした。

本当にありがとうございました。



前列右が鈴木さん

「身障連 みんなで歩んだ50年」

長岡視覚障害者福祉協会

渡辺タカ

10月18日、その日は私たちの会も所属する長岡市身体障害者団体連合会の設立50周年記念式典が開催された日。ガイドヘルパーの方と会場の長岡グランドホテルに到着。中に入ると「50周年おめでとうございます。」と、ホテルの方がロビーで明るく迎えてくださり、身の引き締まる思いで席に着きました。

来賓ごあいさつに続き、今回の50周年記念事業のひとつとして実施された障害者川柳入選発表が行われました。応募総数1,384句の中から、入選及び優秀賞10句を司会の方が歯切れよく、次々と読み上げてくださいました。さすが、楽しい作品揃い!中でも、私は、「おかえりといつもの笑顔 車椅子」という句に心打たれました。幸せな家庭生活の様子が目に見えるようです。寒い日の夜、きっとおでんがおいしそうに煮えていたんでしょね。

最優秀賞に選ばれた「白杖で 路面奏でる いい音色」という句を聞いて、きっと感性豊かな方なんだろうなと感じながら、白杖が手離せない私も、音色を奏で楽しく歩こうとあらためて実感。

ただ入選発表のあと、参加者から、「知ってる人の名前がなくて寂しかった。」という声があり、私も応募した地元会員に、ひとつくらい「努力賞」があっても良かったかなと感じました。

そして楽しい祝賀会。新型コロナ対策のため、席を立たずにすむよう、次々とたくさんのアトラクションが続きました。マジックを見、サクソ、歌などを聴きながら、私は過ぎ去りし50年を振り返っていました。連合会が設立された昭和45年は、私がマッサージの仕事始めて3年目の年でした。以来、総会のたびに社会福祉センターの建設の要望が出ていたこと。その頃、年に一度の懇親旅行があり、長野県の野尻湖でボートに乗った二人がなかなか戻ってこなかったこと、そしてスポーツ大会でこんな私が選手宣誓をさせていただいたことなどなど…。会員も大勢いたし、みんな若かったあの日あの時のことが、つい昨日のこのように思い出されました。

さわやかな秋晴れの日、秋の味覚をいっぱいいただき、秋色(あきいろ)の服を着て家路につきました。節目の記念事業に参加できたことを感謝しています。忘れられない日になりました。役員の皆様、本当にありがとうございました。



お食事中的渡辺さん

長岡身障連50周年式典に 参加して

長岡市肢体障害者協会 横山優子

令和2年10月18日に長岡グランドホテル悠久の間において、長岡身障連設立50周年記念式典が開催されました。

この式典には、ご来賓、会員、ボランティア等約100人が出席して行われました。式次第に従って始まり、最初に南インド古典舞踊の音楽が流れ、両足に取り付けた鈴の音と共に舞台上踊りが始まり会場の皆さん全員が注目して見入っていました。顔は無表情ですが、首、手、足の動きによってインド舞踊が表現されているそうです。驚きです。それと共にこの式典でこの様な踊りが見られるなんてとても感動しました。

続いて、会長挨拶、ご来賓の方々の挨拶が続き、私たち協会に協力いただいた団体に感謝状の贈呈が行われました。

この度、この事業のひとつとして、全国に呼び掛けていた「障害者川柳」の募集で、北は北海道から南は沖縄県まで、1,300作品を超える応募があり、その中から140作品を選び、さらに10作品が入選、表彰されました。表彰された川柳を聞いていると「なるほどなあ、あるある」とうなずく自分がいました。

そして、祝賀会に移り、乾杯、アトラクション

に入りました。

ここでは、藤田会長のサクソ演奏3曲が奏でられました。次に、藤田会長の師匠であるバーディ山井さんのマジックショーです。その手捌きはさすがでした。

そしてお待ちかねの、みんなのアイドル「があがあがあるず」の登場です。「待ってました」の声がかかり、元気の原動力となりました。若い頃にはやった歌が多く、大変ノリノリでつい踊ってしまいそうなほど、久しぶりに興奮しました。

最後に、刈羽村身体障害者福祉協会の丸山会長の万歳三唱で閉会になりました。

このコロナ禍の中で、記念式典が無事に成し遂げられたということは関係各位の協力があったからこそです。本当に心から感謝の念でいっぱいです。ありがとうございました。



中央が横山さん



ご来賓あいさつ



南インド古典舞踊で開会



磯田達伸市長



丸山広司市議会議員



本田史朗社協会長



連合中越様へ感謝状贈呈



米山選考委員長障害者川柳講評



中之島協・視障協の皆さん



肢体協の皆さん



マジックショー



視障協の皆さん



ろう協の皆さん



があがあがあるず



栃尾協の皆さん



栃尾協の皆さん



栃尾協、羽倉さん、佐野さんと



視障協の皆さん



肢体協の皆さん



ボランティアの皆さん

コロナ禍での開催は大変でしたが、皆様から「楽しかった」のお言葉をいただき、苦勞が報われました。ありがとうございました。(事務局)